<table>
<tr><td>授業科目名：
野球</td><td>教員の免許状取得のための必修科目</td><td>単位数：
１単位</td><td>担当教員名：伊藤　栄治
高柿　健
赤池　行平
担当形態：
オムニバス</td></tr>
<tr><td>実務内容
（実務家教員の場合）</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>科　目</td><td colspan="3">教科及び教科の指導法に関する科目
（中学校及び高等学校保健体育）</td></tr>
<tr><td>施行規則に定める
科目区分又は事項等</td><td colspan="3">教科に関する専門的事項
体育実技</td></tr>
<tr><td colspan="4">「学位授与の方針」との関係
ＡからＦの項目すべてに該当する。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業の到達目標及びテーマ
（１）野球（捕る、投げる、打つ、走る）の基礎技術をICTなどを用いて修得する。
（２）野球で主体的で対話的な深い学びを修得する。
（３）野球の動きを分解して、つまずきからの手立てを修得する。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業の概要
「捕る、投げる、打つ、走る」ことを行う野球は、ベースボール型球技と言われ、中学校、高等学校の体育授業でも行われている。しかし、野球未経験者は、「捕る、投げる、打つ、走る」こと全てが得意だとは言えず、発育発達段階や運動経験、様々な特性によって「捕る、投げる、打つ、走る」ことの個人差も決して小さいとは言えない。そのため、野球の楽しさを十分に感じることは簡単ではない。
本授業では、「捕る、投げる、打つ、走る」という行為の基本動作や応用技術を身に付けさせるとともに、何がうまくできないか、どうすればうまくいくかを、ICTやグループディスカッションを実施することによって、学生個人あるいはグループで「気づき、理解する」ことを促す。合わせて、これらが主体的で対話的な深い学びにつながり、「生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなライフスタイルを実現する」ことを理解させる。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業計画
第１回：野球における「捕る、投げる、打つ、走る」とは
第２回：「捕る」基本技術（１）ゴロの捕球
第３回：「捕る」基本技術（２）フライの捕球
第４回：「捕る」基本技術（３）捕球フォーム改善点の確認
（ICTの活用、グループディスカッションの実施）
第５回：「投げる」基本技術（１）コントロール（軸の回転と重心移動）
第６回：「投げる」基本技術（２）投げるフォーム改善点の確認
（ICTの活用、グループディスカッションの実施）
第７回：「捕る」、「投げる」の応用技術（１）捕ってから投げる
第８回：「捕る」、「投げる」の応用技術（２）捕ってから投げるフォームの改善点の確認
（ICTの活用、グループディスカッションの実施）</td></tr>
</table>

第９回：「打つ」基本技術（１）構えからスイング（テイクバック、インパクト、フォロースルー） 第１０回：「打つ」基本技術（２）高低、内・外角への対応 第１１回：「打つ」基本技術（３）打つフォームの改善点の確認 （ICT の活用、グループディスカッションの実施） 第１２回：「走る」基本技術（塁間の走り方） 第１３回：野球のルール、ポジション、審判法、野球における授業の進め方 第１４回：ゲームメイクの理解（グループディスカッションの実施） 第１５回：まとめ 定期試験（実技試験）
教科書 なし　スクーリング時に資料を配布
参考資料 必要に応じて適宜紹介する。
学生に対する評価 実技評価（８０％）、スクーリング評価（２０％）を総合して評価する。